

令和6年度 芝谷中学校の教育活動について(学校評価)

高槻市立芝谷中学校

校長 高谷 陽子

早春の候、保護者・地域のみなさまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の教育活動について、芝谷中学校区グランドデザインを基に取組を振り返るとともに、学校評議員のみなさまのご意見や、学校教育自己診断アンケート結果を踏まえ、今後の対応をまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 芝谷中・第九中学校区のめざす子ども像

「自律・協働・貢献 ～自らの行動でよりよい未来をつくる子ども～」

めざす子ども像	つきたい力
自 律	＊自ら課題を見出し、解決を図る力 ＊最後まで粘り強く取り組み、やり遂げる力 ＊自ら考え、判断し、発信する力
協 働	＊課題の克服・解消に向け、他者とともに行動する力 ＊多角的に物事をとらえる力 ＊異なる価値観をもつ他者とともに価値を創造する力
貢 献	＊未知のものにチャレンジする力 ＊他者のために自ら工夫して実行する力 ＊社会の課題を自分ごととしてとらえ、解決に向けて行動する力

2. 芝谷中学校の教育目標、めざす子ども像

「人権を尊重し、自ら考え行動できる心豊かな生徒の育成」

3. 校区の今年度教育目標と重点取組

令和6年度芝谷中学校区グランドデザイン

① 連携型小中一貫校としての取り組みの推進

(ア) 校区のめざす子ども像の実現に向けLSP 各部会における研究を推進する。

(イ) 9年間を見通した教育課程を編成する。「小小合同学年会議」「小中合同教科会議」を新設し、小学校間、小中学校間の連携を強化する。

(ウ) 中学校教員が小学校の授業の一部の指導を受け持つなど、小中の教科連携についての研究を行う。

② 子どもたちの社会参画力の育成

(エ) 総合的な学習の時間の充実を図る。小中の系統性や各教科等との関連性を意識し、「芝谷中校区総合的な学習の時間カリキュラム」の作成に着手する。

(オ) 探究のプロセス(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)を重視し、子どもたちが参画の実感を得られる学習を設定する。

(カ) ICT 機器や学校図書館を活用して情報活用能力の育成を図るとともに、探究的な学びを深める。

③ 子どももおとなも育つ学校づくり

(キ) コミュニティ・スクール実施に向け、地域・保護者と学校が協働して子どもたちを育てる仕組みづくりに着手する。

(ク) 教職員が積極的に学校運営に参画して学校の組織力の向上を図るとともに、魅力ある学校づくりに向けて力を発揮できる人材の育成を行う。

4. 3に基づいた本校の取組と、それらに対する学校教育自己診断アンケート結果および自己評価

※表中の数値は「そう思う」「とてもそう思う」を合わせた生徒の回答の割合

① 連携型小中一貫校としての取り組みの推進			
主な取組	● 校区3小学校と連携し、校区の研究組織の充実に取り組みました。「授業研究」に加え「総合的な学習の時間(総合)」「特別活動(特活)」「安全教育(安全)」を新設し、小中の担当教員が集まって教育内容の充実に向けて検討を行いました。また、小中が連携した取組を進められるよう、総合、特活、安全の小中一貫したカリキュラムを作成しました。 ● 「小中合同教科会議」を年3回、実施しました。教科ごとに集まって具体的な授業の工夫や評価の在り方等について交流を行い、小中教員の教科面での連携を図りました。小学校教員が中学校で使用している特別教室を参観するなど、教科独自の連携を進めました。 ● 中学校の保健体育科教員が、小学6年生の体育の授業の一部を行いました。専門性を持った教員が小学校で授業を行うことで、小学校教員の指導力の向上につながったり、評価の方法についての課題の共有を行ったりすることができました。		
アンケート結果	関連する質問項目		R5
	学校へ行くのが楽しい。		90.7%
	私は授業に意欲的に取り組んでいる。		91.8%
	先生は、お互いに協力し合っている。		95.7%
	教え方や教材を工夫している先生が多い。		96.1%
			R6
			91.1%
			91.3%
			95.3%
			92.4%
学校評議員からの意見	昨年度と比べて増減はあるものの、どの項目も90%を超える高い割合となっており、生徒たちはおおむね満足していると考えます。 授業の工夫についての項目の肯定的な回答が昨年度より下がっていることから、授業づくりについての課題が見られます。小中合同教科会議では交流するに留まっている教科もあるため、小学校の教員と交流して気付いたことや新たな発見を中学校の授業で生かすことで、生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりにつなげていきたいと思います。 中学校教員が小学校で授業を受け持つ取組は来年度も実施する予定です。小学校教員との連携をさらに充実させ、小中一貫した授業づくりに取り組んでまいります。 学校評議員さんからは、小中学校の教員が協働した取組に肯定的なご意見をいただきました。教員同士がつながり、協働する中で、芝谷中校区の子どもたちを育ててほしいとの要望もありました。		

② 子どもたちの社会参画力の育成			
主な取組	● 総合の授業では、1年「誰もが取り残されない避難所とは」、2年「企業からの依頼～支え合う社会～」、3年「My life～高槻未来提案～」をテーマに取り組みました。地域や企業等の協力をいただきながら、生徒が自ら探究する学びを進めました。1月の教育関係者向けの研究発表、2月の保護者・地域向けの発表会において生徒が生き生きと活動する姿が見られ、高い評価を得ました。 ● 初めから正解のある問いではなく、生徒自らが課題を立て、必要な情報を集め、分析し、まとめるという「探究のプロセス」を総合の授業に取り入れ、生徒が試行錯誤しながら納得しうる「解」を追究する学びを重視しました。 ● 総合だけでなく、多くの教科でICT機器を使って生徒が学ぶ場面を設定しました。また、今年度から配置された校区学校司書を活用し、生徒の学びとリンクした書籍を学校図書館に配架するなどの工夫も行いました。		
	アンケート結果 学校教育自己診断	関連する質問項目	R5R6
	総合的な学習は取り組む中で自分たちで考えを深めることができ、将来役に立つと思う。	88.4%	87.3%
	学校では、自分の生き方や将来について考える機会がある。	92.8%	89.9%
	分かりやすい授業が多い。	92.7%	89.2%
	肯定的な回答は高いものの、昨年度に比べて生徒の満足度は下がっています。 総合の授業では、簡単に答えが出ない問いを取り扱います。難しい課題に対し、生徒は約半年間という長い時間をかけて取り組みます。昨年度に比べて、どの学年の生徒たちもよく思考し、仲間と協働して意欲的に活動する姿が見られましたが、「将来役に立つ」という質問になると、肯定的回答は下がってしまいました。総合だけでなく、教科の授業でも探究のプロセスを取り入れた授業が増えたこともあり、生徒にとって「分かりやすい」実感が減ってしまったのかもしれませんが。教員が授業研究を進め、生徒が学びの実感を持てるような授業づくりを進める必要があると痛感しています。 学校評議員さんからは、総合について肯定的なご意見をいただきました。講師として総合に関わっていただいた方からは、最初の頃は調べたことを発表するだけのグループが多かったが、今年度は考えを深め、実現可能かどうかも見極めた上で提案しているグループが増えた印象があるご意見をいただきました。中には講師側が気付かなかったような提案をしているグループがあり、その道のプロであるおとなが驚くほどだったとお褒めの言葉をいただきました。		
学校評議員からの意見 自己評価及び			

③ 子どももおとなも育つ学校づくり(学校におけるいじめ防止等の対策について)			
主な取組	● 令和7年度からのコミュニティ・スクールの実施に向け、準備を進めてきました。12月には地域にお住まいの方々・保護者・教職員が集まって「熟議」を開催し、校区の子どもたちにどんな力をつけたいか、地域のおとなとしてどんなことができるか等、ざっくばらんに話をする機会を設けました。 ● 教職員の資質向上を図るため、校内研修を実施しました。研究授業については、研究主任のリーダーシップに加え、研究授業の実施や実施後の協議の開催等、いろんな立場の教職員が主体的に動く場面を設定しました。また、特別支援教育については、支援学級担任が校内研修の講師となり、教職員の知見を深める内容の研修を実施しました。 ● 生徒の人権意識の向上に向け、特設の人権学習「ありのまま」を全学年で一斉に実施しました。今回取り上げたのは多様な性の在り方についてで、生徒たちが「ありのまま」の自分を大切にするとともに、他者の「ありのまま」を受け入れ、尊重される世の中をつくっていけることをめざしました。あわせて性的な違いだけでなく、他者のいろんな違いを尊重できることもめざしました。 ● いじめが生じた際は、「いじめ対策委員会」を開催し、迅速かつ組織的に対応を行いました。事案の収束に留めるのではなく、関係生徒たちがいじめ事案を経て「どのように成長するのか」を大事にして指導を行ってきました。生徒指導主事からは、生活だより「みんなの成長を願って」を発行し、日常の気になる場面を取り上げ、生徒が自らを振り返る機会を作りました。		

アンケート結果 学校教育自己診断	関連する質問項目	R5	R6
	わたしは、悩みごとなどを相談できる友だちがいる。	90.9%	91.3%
	先生は、私たちが困っていることに対応してくれる。	92.7%	93.4%
	学校では、お互いの人権を大切にすることを学ぶ機会がある。	95.5%	96.5%
	学校では、いじめ防止について考える機会がある。	90.5%	87.2%
学校評議員からの意見 自己評価及び	昨年度と比べて上昇傾向にあり、生徒たちはおおむね満足していると考えます。 熟議では、地域の方々から「学校との関わりを通して地域のつながりを作り、安心につなげたい」という意見をいただきました。学校が地域コミュニティの拠点の一つとして機能することが必要だと感じています。本校では、コミュニティ・スクールになる前から、地域の方々に教育課程に参画していただく取組を進めてきました。今後も学校での学びが実生活に生きて働くものになるよう、いろいろな方のご協力をいただきながら教育活動を進めてまいります。 生徒たちの人権感覚の涵養に向けて取り組んだ結果、肯定的な回答は非常に高い結果となりましたが、いじめについての回答が昨年より下がる結果となりました。生徒にとって、他人の人権を守ることと学級で起きるいじめ事案とが実感として結びついていないのかもしれません。来年度はこれまでの取組のよいところをさらに追求する一方、特活の授業の充実を図りたいと考えています。特活の目標の一つである「人間関係形成」に着目し、学級活動を活性化し、生徒自身がよりよい学級集団をつくるという意識を高め、実践していく取組を進めていきます。 学校評議員さんからは、中学校卒業後は能力や趣味など限られた人間関係の中で生きることになっていくので、多様な人々と関われる最後の時期である中学校時代に周りの人との衝突を経験し、自分と合わないと思う人ともどう向き合うかが大事になってくる、だからこそ他者と関わる教育を進めてほしいというご意見をいただきました。		

5. まとめ ～来年度に向けて～

今年度は、新しい校区のめざす子ども像「自律・協働・貢献」を意識して教育活動を行ってきました。生徒が自ら主体的に学習に向かうこと、互いの多様性を認め合って協働し心身ともに成長すること、自分の持つ力を誰かの幸せのために発揮し貢献すること、すなわち、そのような姿を授業の中で見られるよう、教職員が意識をして取り組んできました。特に総合の授業では、「自律・協働・貢献」に向かう生徒の姿が多く見られるようになりました。総合では正解が一つとは限らない、もしくは正解のない問いに答えなければなりません。私たちも答えを知らないことがほとんどです。私たちは、最適な解を追究する生徒たちの伴走者として、地域や企業の方々との橋渡しをしたり、調べ方や学びの方向性にアドバイスをしたりするとともに、生徒たちの主体性に委ねました。その結果、前述のとおり、生徒の変容が見られるようになりました。子どももおとなも育つ学校づくりがさらに進んだものと考えます。

また、もう一つの取組として、本校の教員全員で生徒の成長を見取り、価値づけをすることを行ってきました。その結果は学期末にお渡しする「通知表」に表れています。学級担任だけでなくすべての教員が認めた生徒のついた力や成長の様子的一端を、総合所見欄に記載するように変更しました。芝谷の子どもたちは教職員全員で責任をもって育てる、これが今年度の本校の合言葉です。学年末の通知表はこのことを踏まえてお読みいただければ幸甚です。

来年度は、いよいよ「コミュニティ・スクール」となります。これまで以上に地域や保護者のみなさまからのご意見もいただきながら、さらに魅力ある学校づくりを進めてまいります。めざす子ども像はもちろん、本校の教育目標の理念である「人権尊重」「主体性」「豊かな心」を備えた生徒を育成できるよう、教職員一同、情熱をもって取り組んでまいりますので、ご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。